

令和4年における旭川市の人口動態について

1 全体概要

表1. 旭川市の年間(1~12月)人口動態

(単位:人)

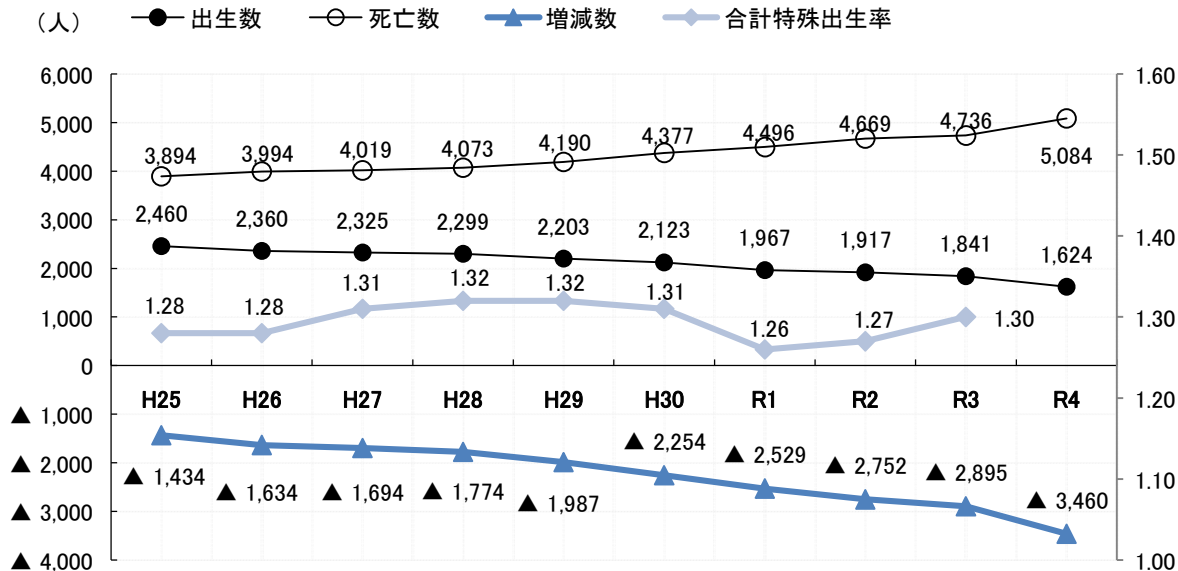
	次年1月1日 現在人口	自然動態			社会動態			全体 増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計	
令和2年	331,397	1,917	4,669	▲ 2,752	10,490	10,411	79	▲ 2,673
令和3年	327,960	1,841	4,736	▲ 2,895	10,039	10,581	▲ 542	▲ 3,437
令和4年	324,186	1,624	5,084	▲ 3,460	10,135	10,449	▲ 314	▲ 3,774
R4-R3差	▲ 3,774	▲ 217	348	▲ 565	96	▲ 132	228	▲ 337

(参照:統計で見る旭川(市HP))

- 令和4年1月~12月における人口動態は3,774人の減少で、自然減3,460人、社会減314人となった。
- 自然増減は前年比565人の減少拡大、社会増減は前年比228人の増加となった。

2 自然増減の推移

図2-1. 旭川市の年間(1~12月)自然増減の過去10年間推移



○ 死亡数は、増加が続いており、令和4年は前年より348人多い、5,084人となった。

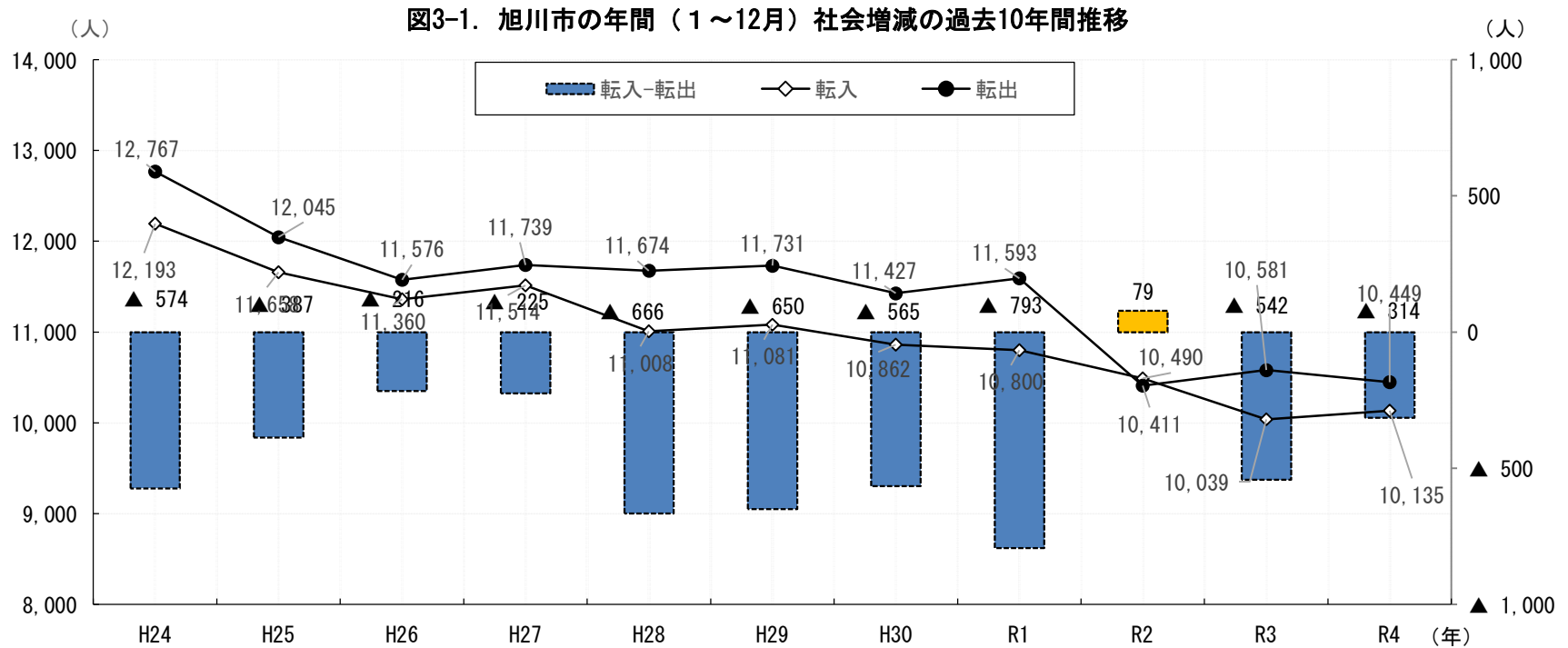
○ 出生数は、平成26年以降、毎年減少を続けており、令和4年は前年より217人少ない、1,624人となった。

○ 出生率は、平成24年以降、増加傾向で平成28年には1.32となった。令和元年は1.26まで減少したものの、令和2年から増加傾向にあり令和3年は1.30となった。(国1.30 北海道1.20)

(参照:統計で見る旭川(市HP)ほか)

3 社会増減の状況

(ア) 推移



(参照:統計で見る旭川(市HP))

- 令和4年の転入者数は、10,135人で過去10年間で2番目に少ない水準となっているものの、前年より96人増加している。
- 令和4年の転出者数は、10,449人で前年より132人減少し、過去10年間で2番目に少ない水準に留まっている。
- 結果、社会増減数（転入-転出）は、314人の転出超過となったが、超過幅は228人小さくなった（▲542人→▲314人）。

(イ) 地域別転出入状況

図3-2. 過去5年間の道内移動

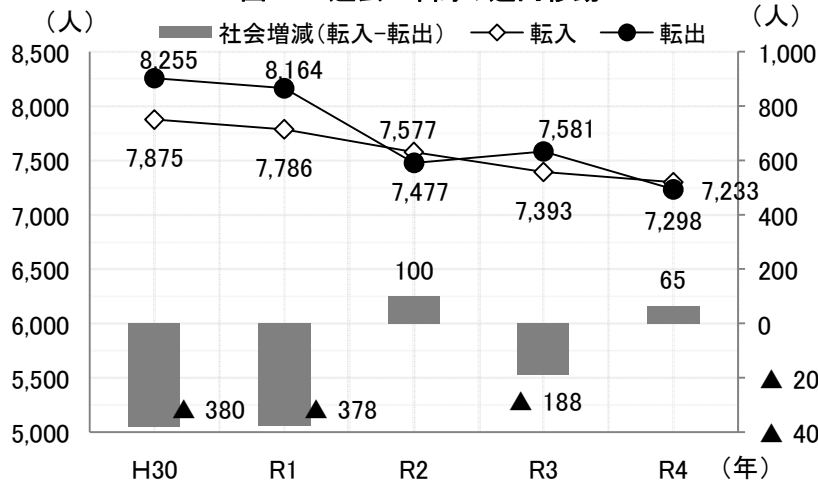


図3-3. 過去5年間の道外移動

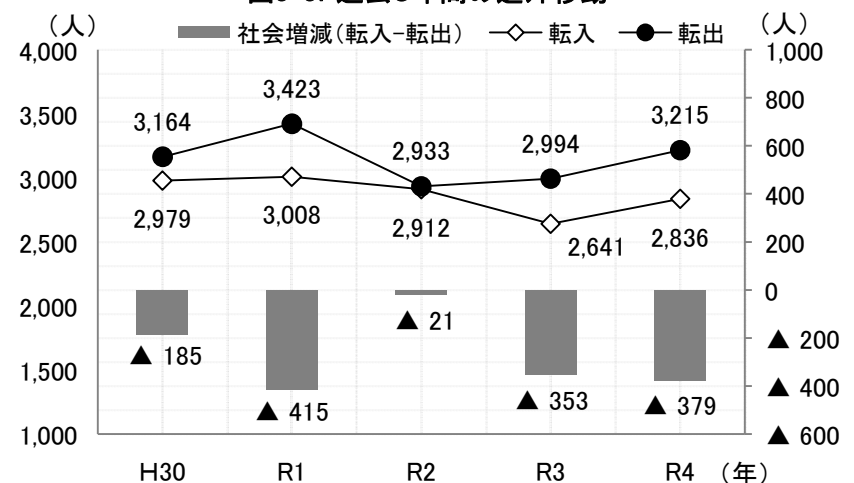
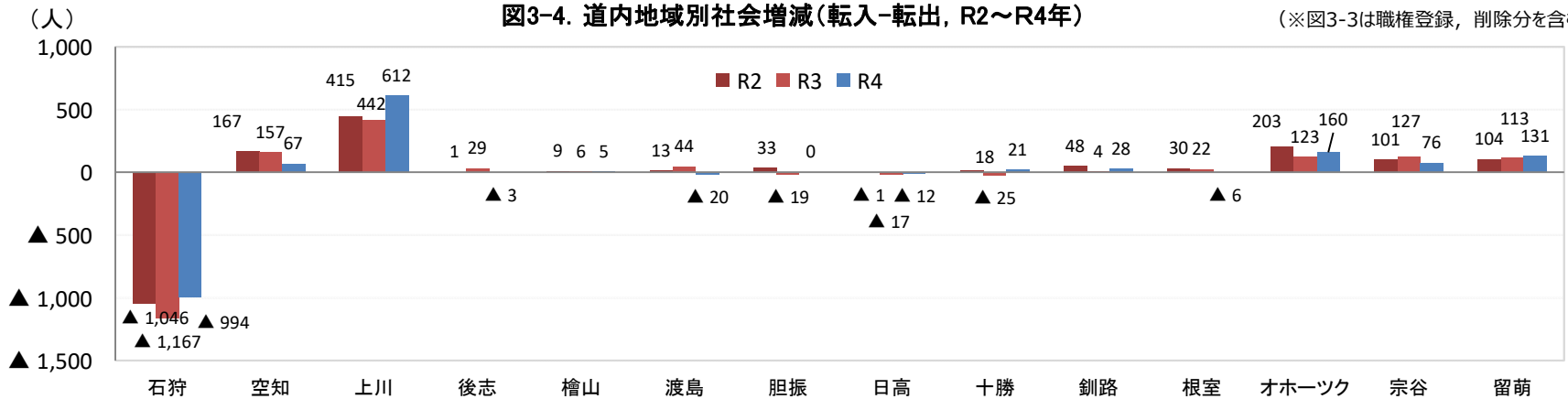


図3-4. 道内地域別社会増減(転入-転出, R2~R4年)

(※図3-3は職権登録, 削除分を含む。)



【主な特徴：道内、道外ともに転入が減少、転出が増加。特に道外の転入が大幅減少】

(旭川市調べ)

- (図3-2) 道内移動については、転入者数が平成26年以降9年連続で減少が続いている。一方で、転出者数の増減により令和3年に転出超過(▲188人)となったものの、令和4年は転出が減少し、結果として65人の転入超過に転じた。
- (図3-3) 道外移動については、転入者数が前年より195人増加したものの、転出が221人の増となっており、結果として379人の転出超過となった。
- (図3-4) 道内移動の14地域別比較では、転出超過が最も大きい石狩地区が前年より173人減少したものの、994人の転出超過と高い水準。一方で、空知、上川、オホーツク、宗谷、留萌といった道北、近隣地域からの転入超過の傾向が続いている。

(ウ) 男女別転出入状況

図3-5. 男性・移動推移

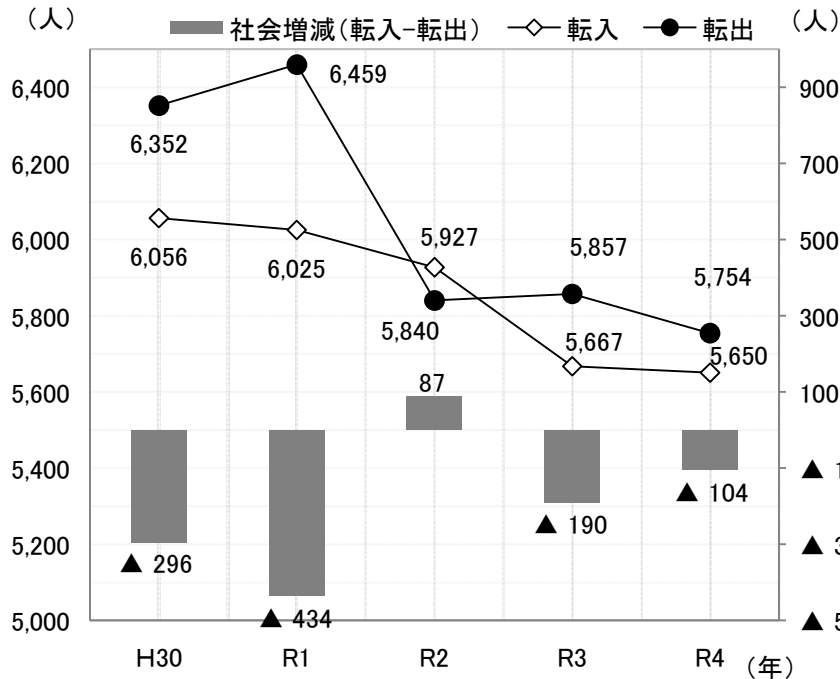
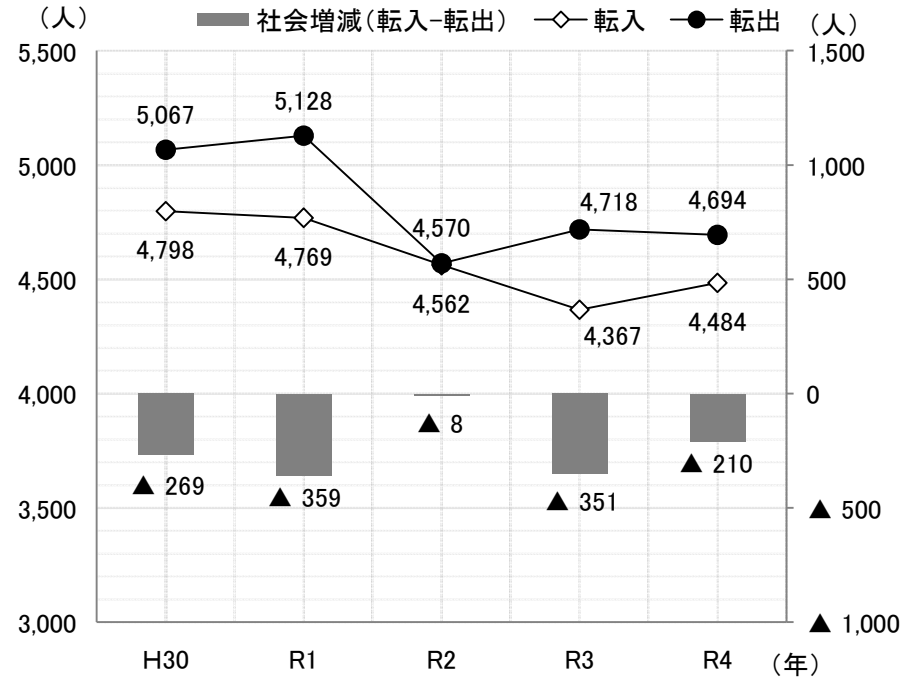


図3-6. 女性・移動推移



【主な特徴：男女とも転出者数が減少。女性は転入者数が増加に転じ、社会減は男女とも減少傾向にある】

- (図3-5) 男性は、転入者数が前年より17人の減となったが、転出者数が前年より103人減少した結果、転出超過は104人となり、転出超過数は前年から86人減少した(▲190人→▲104人)。
- (図3-6) 女性は、転入者数が4,484人と前年より117人増加し、転出が前年より24人減少した結果、転出超過は210人となり、転出超過数は前年から141人減少した(▲351人→▲210人)。

(工) 年齢区分別転出入状況

図3-7. 年齢区分別(転入-転出)

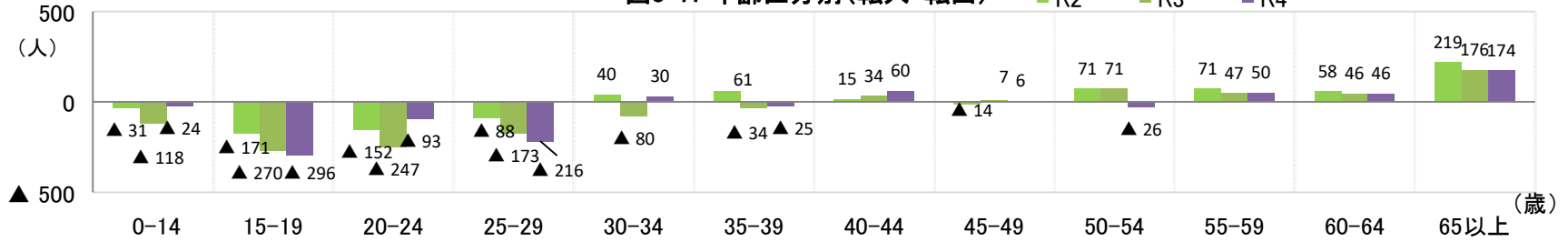


図3-8. 男性・年齢区分別(転入-転出)

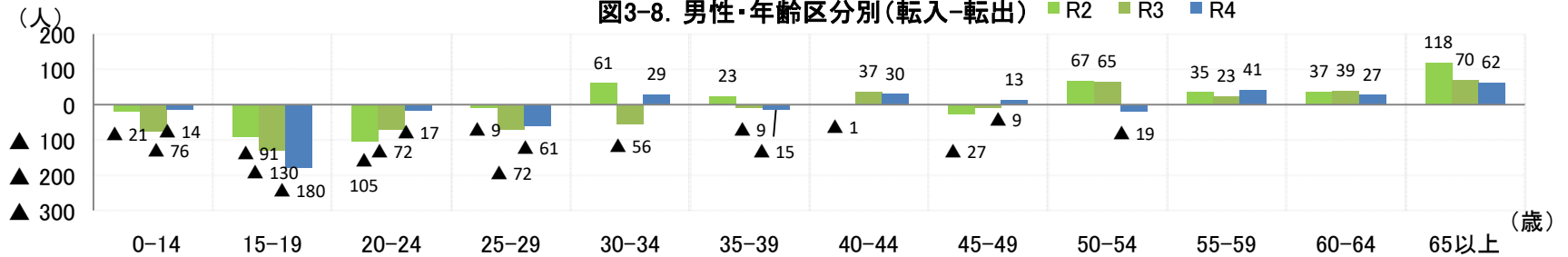
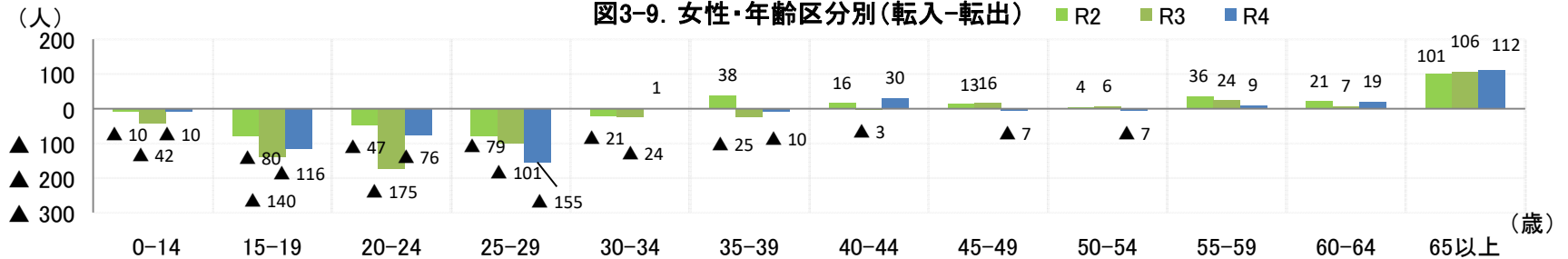


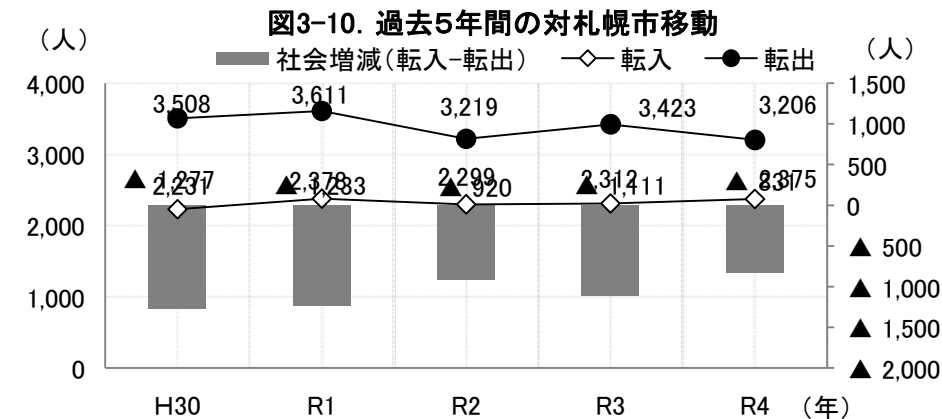
図3-9. 女性・年齢区分別(転入-転出)



【主な特徴：前年と比較すると若年層（0歳-29歳）転出超過幅は縮小（▲808→▲629）したが、若年層の転出が大きな課題】

- (図3-7) 年齢区分別では、15歳-29歳の転出超過は継続しコロナ前に迫る水準となる一方、30歳-39歳は社会増減幅が比較的低い水準に留まっている。また、40歳以上はおおよそ転入超過となっているが超過幅は減少傾向がみられる。
- (図3-8) 男性では、前年と比較し、15-19歳で転出超過が大幅に拡大する一方、20歳-29歳では転出超過幅が縮小している。
- (図3-9) 女性では、前年と比較し、15-24歳が転出超過幅が縮小する一方、25歳-29歳は転出超過が大幅に拡大している。

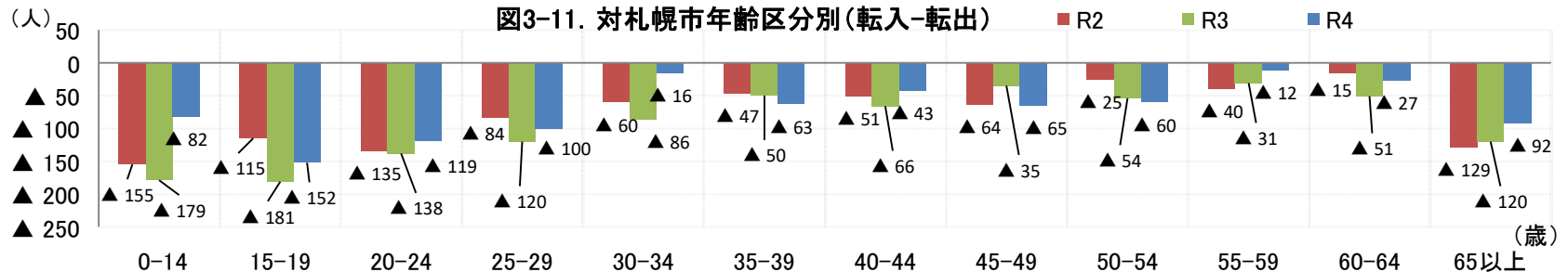
(オ) 対札幌市転出入状況



(図3-10)

道内移動でも最も転出超過となっている対札幌市との転出入は、前年より転出者数が217人縮小、転入者数が63人増加した。

その結果、転出超過幅は前年より280人減少したものの、831人の社会減と高水準が継続している。



(図3-11) 年齢区分別では、すべての区分で転出超過となっている。

4 令和4年における人口動態のまとめ

- 自然減が拡大傾向にあり、年間の人口減少数が過去最大の3,774人となった。
- 自然減については、前年より、死亡数が348人増加、出生数が217人減少となり自然減が拡大している。
- 社会増減については、
 - ・全体としては社会減が前年より228人縮小（▲542人→▲314人）
 - ・道内移動については、転入者数が平成26年以降9年連続で減少が続いている。
 - ・道外移動については、転入者数が前年より195人増加したものの転出者数も221人増加し、結果として転出超過が拡大した（▲353人→▲379）。
 - ・引き続き、15歳-29歳の若年層の転出超過が大きい。